

新年の挨拶



院長 阿部 昌彦

春
夏
秋
冬

新型コロナウイルス感染症も日本上陸後すでに3年経ち第8波が過ぎようとしています。テレビ報道ではこの原稿を書いている日からちょうど3年前に道内で初めて新型コロナウイルスが確認されたことや連休明けの5月8日に感染法上5類へ扱いを移行すると報道しています。

さて昨年は皆さま方の施設では感染予防対策、クラスター対応でたいへん厳しい1年だったのではないのでしょうか。流行を繰り返す度にコロナウイルスの感染力は増強し、軽症化はしたというものの高齢者へのリスクは相変わらず高いままです。社会活動でのウィズコロナはいよいよ本格的になります。医療や介護の現場での対応は変わらずに続けねばならず難しい年になりそうな状況かと存じます。

さて今回も年の初めに統計の話の一つ。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、地域医療構想で使われている医療と介護の将来需要予測ツールが産業医科大学公衆衛生学教室のホームページで一般公開されています。

(<https://sites.google.com/site/pmchuoh/files/chv-1>)

これを使ってこの地域の将来予測をみますと留萌管内の医療需要予測は総入院患者数では現在と比較して2030年で-5%となりその後5年毎に1割ずつ減少、総外来患者数は2030年で1割減少しその後やはり5年毎に1割減となります。

一方介護については要介護3-5の人口は2045年まで現在より微増のまま持続します。そして施設入所系サービス需要(医療・介護)は2040年にピークを迎えその後かなり急速に減少します。訪問系需要はそれより早く2030-35年にピークを迎え減少していくことが予測されています。

医療介護系の人材が少ない当地域で今後10数年の需要増大に答えなければならず皆様方の施設においても大変なことかと存じます。当院も総合診療、地域包括ケア、地域多職種連携を中心とした医療を提供し留萌中北部の医療連携の要としての役割をより高めていく所存です。多くの施設とのさらなる良好な連携を進めて参りますと共に皆様方の今年のご健勝をお祈りし本年のご挨拶とさせていただきます。

編集

道立羽幌病院

サービス向上委員会

院外報部門

第68号

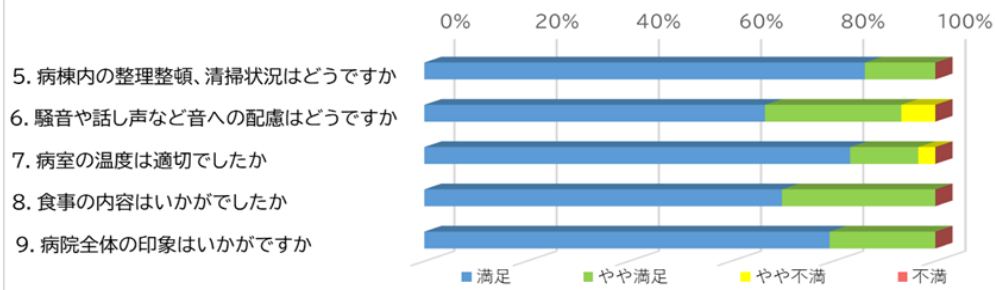
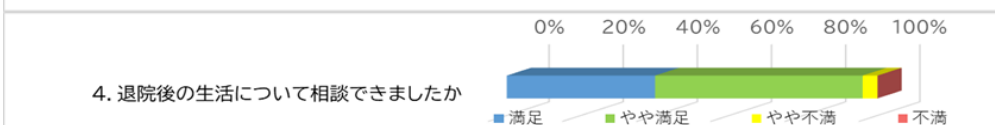
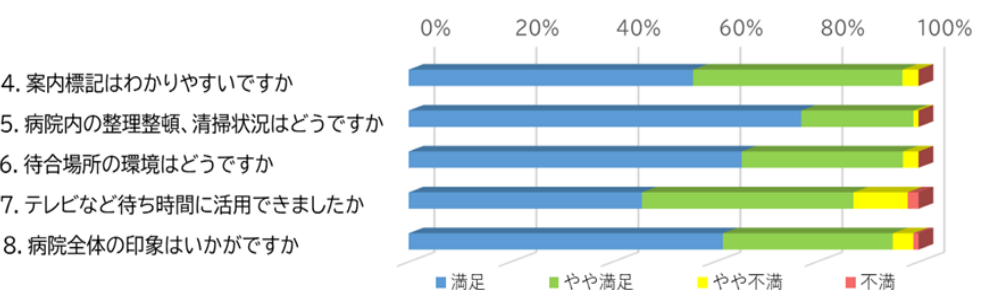
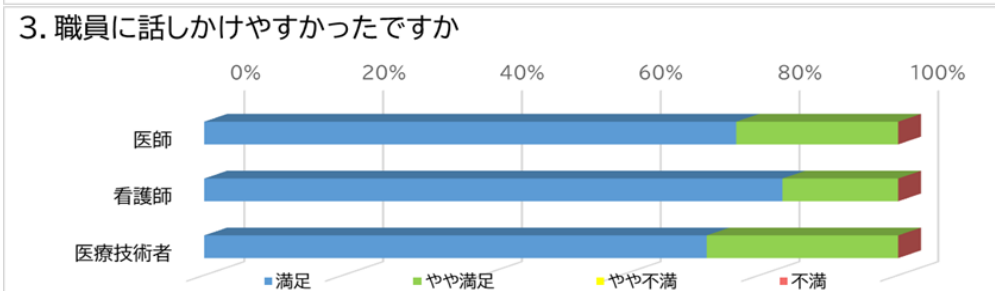
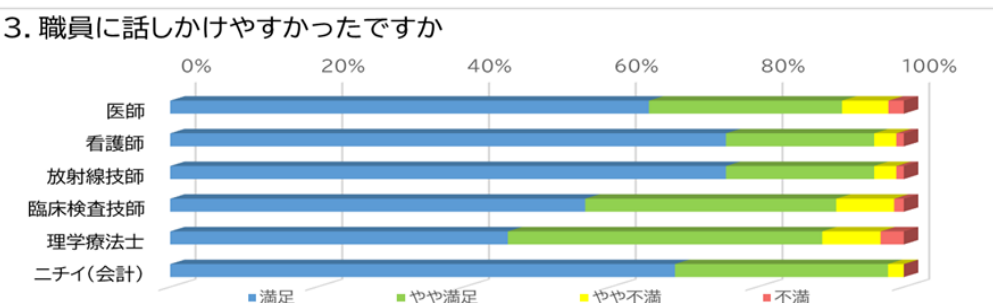
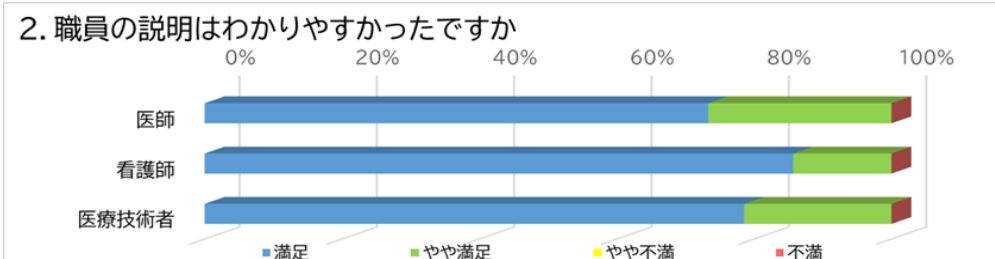
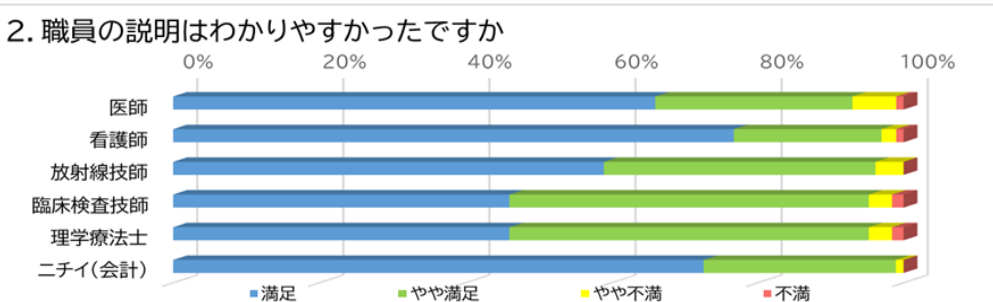
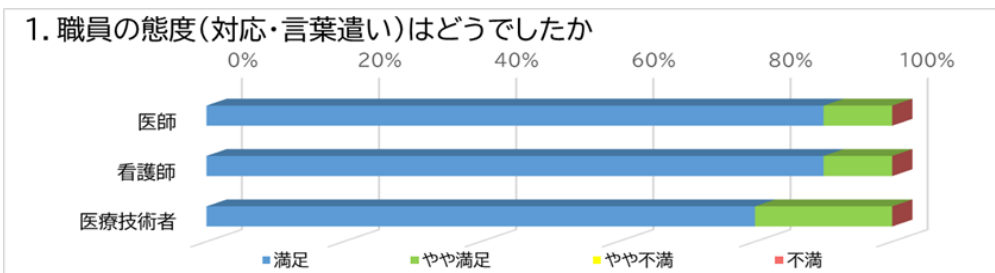
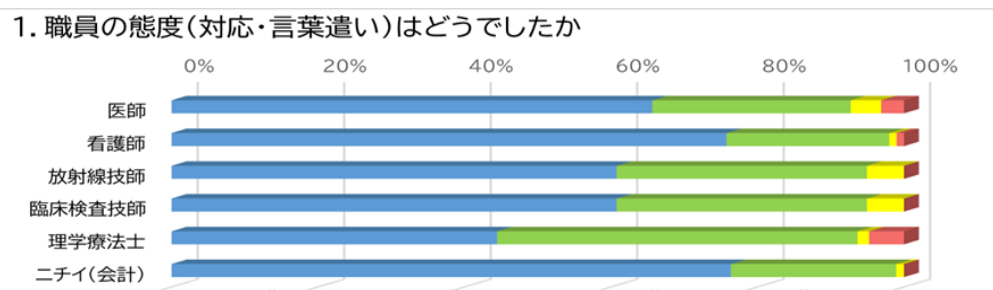


患者満足度調査を実施しました

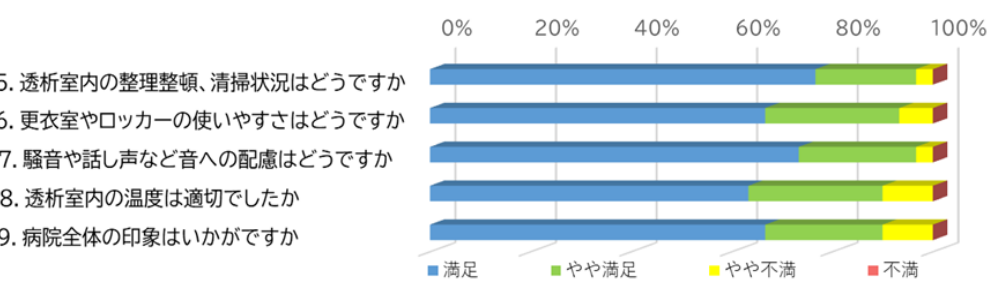
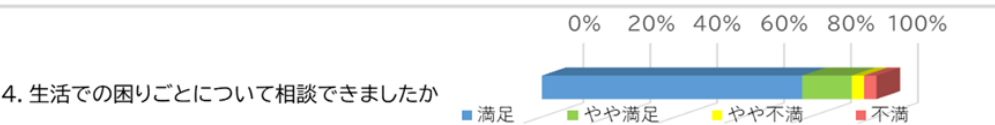
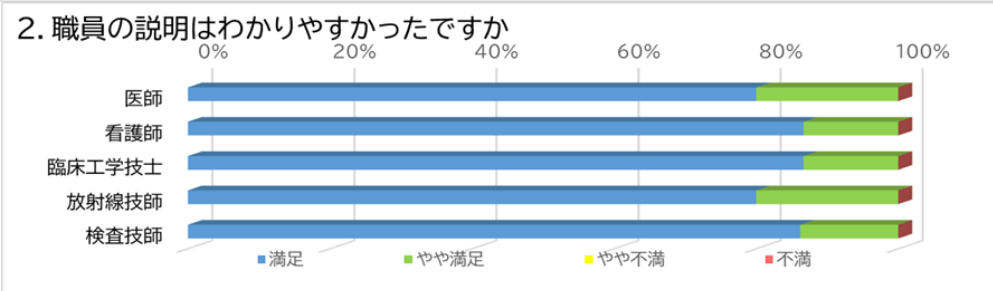
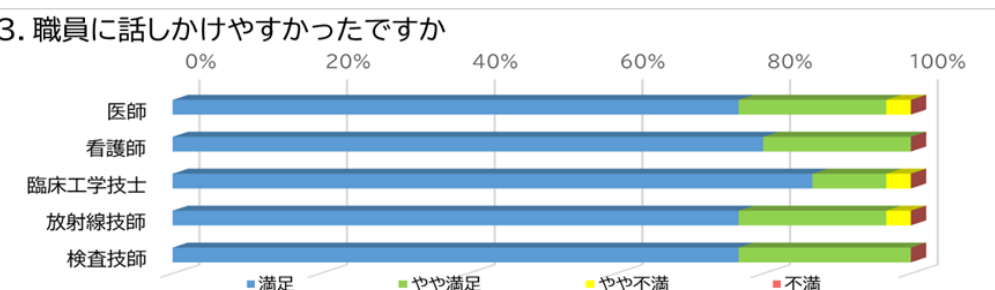
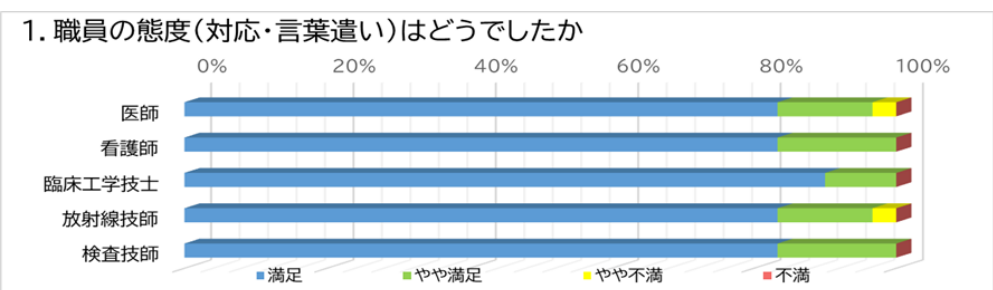
羽幌病院では、患者さまへのサービス向上を図るため、毎年アンケートによる調査を行っています。今年度も10月～11月にかけて調査を行い、外来100件、病棟30件、透析30件の回答をいただきました。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

【外来】	全体数のうち満足の割合	全体数のうち不満の割合
	95%	5%

【病棟】	全体数のうち満足の割合	全体数のうち不満の割合
	99%	1%



【透析】	全体数のうち満足の割合	全体数のうち不満の割合
	96%	4%



患者－医療者パートナーシップ宣言

～当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます～

- 医療の主役は患者さまです。
- 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について十分な説明をします。
- その上で納得して医療をうけられるように支援いたします。
- わからないことは何でも、お気軽に相談して下さい。

地域連携室からお知らせ

入院患者さまのオンライン面会の予約窓口となっております。面会をご希望の方は、電話で受付を行っておりますので、ご連絡ください。
電話：0164-62-6060 (代表)

